

歌劇

天空の町

〜別子銅山と伊庭貞剛〜

台本・作曲・総監督／石多エドワード

別子金山を元の青々とした緑に戻さなくては――。

あの山を緑に戻せたこと、私の人生それで充分。

伊庭貞剛（いばていこう）

2013年10月19日（土）17時半 開演

（開場は開演30分前）

八幡浜市文化会館（ゆめみかん）大ホール

入場料 全席自由席・当日券無し

大人 2000円

中高生 1500円

小学生以下 1000円

新居浜市 旧別子 蘭塔場
撮影：田尾忠士

主催：オペラプラザ愛媛

共催：八幡浜市教育委員会・NPO法人東京オペラ協会

後援：歌劇「天空の町」を世界に贈る会・八幡浜市文化協会・一般社団法人八幡浜青年会議所

協賛：帝人株式会社・サンコロナ小田株式会社

問い合わせ先：オペラプラザ愛媛 事務局 E-mail：ehime@tokyo-opera.gr.jp

090-9450-2248（ハダ）または 090-2782-4282（兵藤）



ユニバーサルデザインでオペラを！

楽譜が読める方はもちろん、楽譜が読めないという方もどうぞ！

年齢、性別、国籍、障がいや、音楽の経験の有無にかかわらず、様々な方が一緒に参加し、舞台を楽しめるよう演出を工夫しています。

天空の町

採掘精錬による煙害で荒れ果てた別子銅山を緑に還した男、伊庭貞剛。彼の優しくも堂々とした生き様を、大人も子どもも元気に歌い踊る、美しいメロディで綴った歌劇。



.....あらすじ.....

■プロローグ

別子山に秘めやかに咲く花々に緑深い木々が優しい歌を歌っている。そこに旅人がやって来て、活気付いた往時の別子山を蘇らせる。

■第一幕・・・弘化4年～明治27年(1847年～1894年)

別子山で働く女たちが、現代の女の視点からわかりやすく庶民的に、日本のいい男、いい女ってどんな人？と問いかけながら物語は進む。

別子山の昔からの生活の様子、切り上がり長兵衛による銅山の発見、広瀬幸平の指導力による繁栄、それらが次々と展開する。

一方青年伊庭貞剛は、動乱の京都へ旅立って行き、その流れから官界へと入ってゆく。

しかし、天下・国家を考えて官吏の世界で働いてきた正義感溢れる伊庭にとって、墮落した藩閥政治の官界はもはや自分が住むべき世界でないと考え、きっぱりとやめてしまう。

そのころ、住友の発展のため、優秀な人材を探していた広瀬は、伊庭を本店支配人として誘う。

様々な事件や周りの人々との葛藤の後、伊庭は遂に別子銅山に単身向かうことを決意する。

■第二幕・・・明治27年～大正15年(1894年～1926年)

火中の栗を拾うが如く、荒れ果てた別子山に来た伊庭貞剛。自然が徹底的に破壊された別子山の嘆きの声を深く抱きとめながら、過酷な労働に苛立つ鉱夫たちとの危険な折衝に、誠実に粘り強く向き合い、解決に導く。

労使紛争の解決、煙害の克服、別子山の緑化、など全てを熟慮、祈念、放下、断行し、ついに解決に導いたことを、帰阪して誇らしげに報告する伊庭に、信頼する義山和尚は「世の中まじめに観てな。」の一声。やがて、自分の成功は、難しい事務作業に一生を捧げてくれている部下、別子銅山で働いた多くの鉱夫やその家族、そして大自然からの恩恵があって初めて出来たことなのだ気づき、改めて義山和尚に感謝する伊庭。

別子山を緑に戻せたことを謙虚に感謝する伊庭に「晩晴」を見出す。日本人の本来の心、清貧、陰徳、謙虚、素朴、無為自然、自然賛美、などにこそ世界へのメッセージがあると、死を前にした伊庭が静かに語る。

■エピローグ

別子山がもう一度静かに大きく浮かび上がる。自然こそが神だ、と旅人は語り、微笑みながら去ってゆく。最後には、別子山に生きるすべての命がもう一度元気に甦り、大自然に抱かれることの幸せが大合唱で歌いあげられて幕となる。

登場人物

- 伊庭貞剛・・・この物語の主人公。環境対策の先駆者。
- 広瀬幸平・・・伊庭の叔父。住友初代総理事。
- 松・・・伊庭の最初の妻。幼い娘のはるを残し、病死。
- 梅子・・・松の死後、伊庭のところに嫁いでくる。はる子を含む10人の子ども、母田鶴子を支え家庭を守った。
- 田鶴子・・・伊庭の母。広瀬幸平の姉。
- 旅人・・・世界中を飛び回り、旅を続ける人。この物語の案内人。
- 塩野門之助・・・フランスの鉱山技師ラロックの通訳として住友に入社。パリ留学の帰国後、別子銅山技師長となる。
- 大島供清・・・住友の社員。広瀬と意見が合わず退職。
- 住友友純・・・住友14代家長。伊庭に請われ、貴族の徳大寺家から養子婿として住友に入る。
- 切り上がり長兵衛・・・元禄3年、田向重右衛門に別子銅山の鉱脈を見つけて進言した人。
- 小川冶兵衛・・・当時、日本最高の庭師と云われた人。
- 田向重右衛門・・・住友吉岡鉱山の支配人の時、切り上がり長兵衛から別子銅山の鉱脈の存在を聞き、調査した。
- 森の精・・・別子銅山が栄える一方、公害で枯れてゆく森を助けてほしい、と伊庭の夢に出てくる精。
- 敏子、幾久子、隆子・・・伊庭の娘たち。
- 女たち・・・この物語を現代の立場から見ている人たち。
- 花、樹木、動物・・・別子山に生きる動植物たち。
- 村人、役員、社員、鉱夫、従業員・・・当時の別子山で生活していた人々。

今後の公演予定 2013年 12月8日 松浦市文化会館ゆめホール
2014年 5月6日 びわ湖ホール



全国オペラプラザグループ

- オペラプラザ長崎 090-4380-2339
- オペラプラザ福岡 090-5294-7931
- オペラプラザ愛媛 080-3164-1148
- オペラプラザ岡山 090-6656-1976
- オペラプラザ関西 090-9137-1976
- オペラプラザ新宿 070-5810-1976

あなたも参加しませんか？

オペラプラザえひめ

オペラプラザ愛媛事務局 e-mail:ehime@tokyo-opera.gr.jp